発行月：平成27年 9月　家族新聞　第402号

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 髙橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
（渋川福祉センター内）
TEL 0561-51-2878

平成27年8月23日(日)

8年間ありがとうございました。

東京大学生態水文学研究所での水生昆虫採訪学習は27年度をもってピリオドをうった。今回は最終年度でもあり、いままで見学したこともない、庄田川の源流の地点へ往復二時間かけて、歩くことになった。

真夏の時期に18度の温度で涼しく、沢に吹く風も我々を歓迎している様であった。

"どこが行き止り"ですと案内人の言葉で納得。小さな穴に手を入れて、ポタリ、ポタリと両手に落ちる雫には感動ものであった。

子供達を8年間つれて昆虫と会話しながら過して来た日を考えると、子供達のために良かったなと、つくづく思った。

僕の夏休みはこの源流林で僕の夏休みだと言ってた言葉が忘れられない。」

川で保護した水生昆虫を顕微鏡で観る子供達。

源流への道、歩く歩く

森の中の物語を語る。

太陽、土、水、そして植物、私たち動物はこれらなくして生きることはできません。都会、地方の垣根を越え、土の大切さを考える時が来ています。

一本の草も、一匹の虫にもそれぞれの生活があります。今まで見すごしていた彼らの生活をもう少し深くさぐってみましょう。

彼らの生活を知ることによって自然界のなぞが一つづつ解けていくかもしれません。

小さな川でサワガニや水生昆虫を採する子供達と学生達。

うのまま生きとした森はいつまで続くのか。

自然の生み出す豊かな色彩と音に満ちた森。鳥のさえずりや虫や風の奏でる調べ。まるでおしゃべりでもしているような楽しげな水音の絶えることない森をぼくは夢ていた。森の気を存分に吸うことのできる、そんな森を。

講義と注意点を参加者に説明するサポーターの人達。シンポジウムの会。